

自然に学ぶ夏山登山

文化
なかの

中野市公民館報

2009

No.54
(通巻No.586)

9

発行
中野市中央公民館

編集
文化なかの編集委員会

〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号

TEL 0269-22-2691
FAX 0269-26-2342

市民登山教室

中野市中央公民館は8月1、2日南アルプスの女王と呼ばれる仙丈ヶ岳(3033m)で市民登山教室を開きました。

77歳を最高齢に43名の参加者は一時、小雨に見舞われるなど天候に恵まれない中、リーダーの的確な指導により、夏山登山を楽しみました。

頂上からの360度パノラマは望めなかったが、雨の中で咲く可憐な高山植物、曇天を壮大なシヨータイムに変えた夕暮れの虹、ご来光は登山の醍醐味。

それぞれが健康で参加できたことに感謝し、山の自然に多くを学ぶ。「雨もまたよし」

今月号の
特集

優良先進
公民館

視察研修

あおぞら

過日、市内某高校の主催で「保護者のための大
学見学会」が開催され、
参加させて頂きました。

昔とは様変わりした現
在の大学を保護者にも知
ってみたいとのねらいで
開催されたのですが、昔とのあ
まりの違いに本心に驚かされま
した。

ある講義では学生は教科書も
ノートも持って来ず、ノートパ
ソコンを持ってきます。教科書
の内容は学内どこでも受信でき
る無線LANより配信され、ノ
ートを取るのもパソコン上です。
当然レポート等もそのまま教授
に送信して提出します。

学食もきれいでレストランの
ようです。4階建ての建物すべ
てが学食で、最上階1フロアす
べてマクドナルドという所もあ
りました。薄暗い学食の隅こ
で素うどん食ってる学生なんて
今はもういないのです。

それだけ恵まれた環境にいる
学生たちですが、皆目的を持っ
て真面目に勉強に励んでいる姿
が一番印象的でした。4年間遊
び狂ってるような殻潰しも今は
もういないのかもしれない。

(く)

視察研修

編集委員 の 体験取材

地域の教育・文化を推進するために

中野市公民館は毎年、分館活動の推進と、地域の教育、文化のまちづくり推進を目的に「優良先進公民館視察研修」を実施している。

今年7月24日（金）伊那市伊那公民館・伊那食品工業㈱を視察した。

編集委員が分館関係者と共に参加したので視察の様様をレポートする。



伊那公民館の活動について質問する参加者

●雨天のなかの視察へ出発

当日は分館関係者約40名が参加した。7時40分頃、雨天のなか中央公民館を出発した。

心配した雨は松本市の辺りから曇りに変わり、10時に伊那市

公民館に到着する頃には晴れていた。改めて長野県の大きさを感じた。

●伊那公民館の活動

伊那公民館では主に「おいで塾」と「おやじの会」について研修した。

両講座は「住民は何を求めているのか?」「子どもや中高年の男性が来る公民館にするには?」を着眼点に開講し、好評



熱い語り口調の武田館長

を得ているという。

身振り手振りを交えた武田館長の熱い語り口が印象的で、参加者は熱心に聞き入り、質問をしていた。

●企業の社員への評価とは?

伊那平を眼下に「ファームレストラン トマトの木」での昼食後は、CMで馴染み深い商品「かんてんぱぱ」の伊那食品工業㈱で研修した。



社員が整備した“かんてんぱぱガーデン”

丸山勝治取締役室長の話の中で「社員の評価を、能力で決定する企業も増えてるが、安心して仕事ができる年功序列でもない。ただその分の仕事はする。体力で若者に勝てないのなら、

知恵を出す、技術を教える、責任を負うといった役割を果たす。ちなみに私は社長から「君は役員なんだから365日、24時間勤務だよ」と言われてる」と苦笑しながらの話が新鮮であった。ちなみに丸山さんは旧牟礼村出身で、北信地域の人があると嬉しさのあまり話が長くなってしまうとのこと。

●マンパワーを再確認

今回の視察では、公民館長と企業の取締役室長の話を聞いた。事業を企画・展開するうえで「人は何を求めているか?」「そして「どのよう組織内から知恵・やる気を出させるか?」といったマンパワーの重要性を共に話していたことが、非常に印象深かった。

特**集**

優良先進公民館



かんでんぱぱホール前での記念撮影

夏休みの居場所づくりを

子どもたちに人気おいで塾

公民館は、女性と年配者の利用が多い。「家の中でテレビやゲームに夢中になっている子ども達にこそ、公民館に来てもらおうじゃないか」。そんな発想からはじまった「伊那おいで塾」には、夏休みなどの休日を利用して子ども達が集まる。元教員や大学生ボランティアが宿題を手伝い、おやつ作り、ゲーム、映画鑑賞など、朝から

夕方まで充実したスケジュールが生まれ、5日間を初対面の子ども達が一緒に過ごす。

「宿題が終わってよかった」「新しい友達が出来た」「家にいるより楽しい、また来たい」と喜ぶ参加者が多いという。共働き家庭では、「子どもだけの留守番が心配だったので助かった」という声もあるようだ。

学校、家庭だけでは充分でない子どもの教育。地域社会にできることは何か？改めて考えさせられた。

お父さんに元気を

お酒もOK おやじの会

公民館に最近、60歳から80歳の男性からの問い合わせが多いという。「趣味がないから紹介してほしい」「料理を習いたい」など。こうした要望を受け、伊那公民館は「伊那おやじの会」を立ち上げた。男性だけで運営し、企画も自分たちで決める。料理教室や物づくりに挑戦し、おやじ達の居場所づくりが始まった。

驚くのは、お酒も許されていることだ。飲み会をきっかけに親しくなるという効果も期待できる。

武田館長は「厳しい社会で社長を務めた人も、鎧を脱いで優しくなった。参加者は平等の間。人生の後半から、本当の人間になる」と話していた。

偏見かもしれないが、公民館は子ども、女性、高齢者の学習や趣味の場との印象が強かった。しかし、これからは「お父さん（男性）に元気を」と、男性の居場所づくりが求められている。

こん にちは 分館

七瀬分館は平野地区に位置します。国道292号線が集落の中心を走り、近年は大型店も増え、地域環境が早いスピードで変化している場所です。

分館事業は、班対抗球技大会を皮切りに、シヨンシヨン祭り、夏休み映画会、敬老会、分館講座、人権講座、最後にどんど焼きで終了します。

特に「班対抗球技大会」は子どもからお年寄りまで参加し、好プレー・珍プレーと汗を流し、

日が暮れるまで熱戦が繰り広げられます。みなさんが元気で楽しく参加している姿を見た時、公民館活動の大きな満足感が得られます。

七瀬分館

分館事業で一番苦労する点は、どうすれば子どもからお年寄りまで、大勢の区民が参加し「今日は楽しかった」と言ってもらえるかという問題です。今、大きな社会問題になりつつある少子高齢化が進む中、男女年代を問わず参加できる事業の構築が必要と感じています。区民のみなさんの意見を参考



好・珍プレー続出の球技大会

に、より意義のある分館活動を目指して行きたいと考えています。(分館長 塩野谷健治)

ふるやとの歴史

江戸時代末の元治元年、姥ヶ沢から呑水を、七瀬・大俣両村入会山から大俣村へ引き入れようと計画した際、両村の間で紛争が起きた。その仲裁をしたのが本学院の山伏であった。本稿ではこの山伏について記してみたい。

七瀬村の山伏(本学院)

七瀬村の慶安五年(一六五二)の検地帳によると、姥ヶ沢地籍に約一反二畝の畑が大学坊となっている。一定の区画をもつ建物が、かつてあったのだろう。これが江戸時代に入ると七瀬村の中へ移り、本学院となったものである。こ

大俣村では本学院のお手をわずらわし紛争を解決している。正月には本学院から大俣村へ酒五升を届けている。大俣村でもそれだけの礼をつくしていたのである。

これらの人は修験者(法印)であり「院」という法号をつけていた。このような修験者は近在の村々において、加持祈祷の宗教家として信者を集めていたのである。

七瀬・大俣両村出入の件でも、

七瀬村の本学院は、京都聖護院派の修験宗の総本山の流れをくむものであるという。また同検地帳には「山伏塚」という畑もある。中世もしくは、それ以前の修験者を葬った塚であろう。

七瀬村も大俣村も中世には姥ヶ沢に住み、集落を形成していたが、それが片方は現七瀬集落へ、もう片方は現大俣集落へと耕作地のある場所へ移動したという伝承もある。

検地帳記載の「大学坊」は、慶安五年以前に確かに姥ヶ沢に建物があり、修験者がそこで生活していたことを物語っている。(松沢邦男)

近所 ニュース

小沼の灯籠流し

小沼区で送り盆の16日、戦後からずっと続けられている恒例行事の灯籠流しが行われました。

分館や育成会が中心となり、各家庭でつくった灯籠を持ち寄り、日が暮れた午後7時から、区内の中川で灯籠を流しました。

今年には55個ほどの灯籠が集まり、夜の川に、幻

想的な光が灯されました。子どもたちも楽しそうに、灯籠を追いかけていました。

昔は100個以上の灯籠が集まり、市内でも珍しいことから、ほかの集落からも見学に来る人もいたそうです。

最近では子どもの数も減り、参加者も灯籠の数も減ってきたようですが、今回は里帰りした親子など約80人が集まりました。

灯籠を川から引き上げた後は、小沼公民館で花火大会が開かれました。

灯籠を丸く並べて種火にし、打ち上げ花火などには、子どもも大人も大興奮でした。



灯籠を追いかける子どもたち

今月の伝言板

講座の詳しい内容につきましては、各公民館までお問い合わせください。

■中央 ☎ 22-2691 ■北部 ☎ 26-0677 ■西部 ☎ 23-1024 ■豊田 ☎ 38-2922

	講座名	日時	場所	講師	備考
中央公民館	絵画教室	・10/7・14・21・28 ・11/4 13:30～15:30 (全5回 毎回水曜日)	中央公民館 教室(2階)	<洋画家> 坂入 進一 先生	<定員>15名 <受講料>無料 <持ち物>絵画用具一式、鉛筆(2B～4B)数本、スケッチブック(F6サイズ) <申込み>9月14日(月)から
	歴史講座	・10/7・21・11/4 19:00～20:30 (全3回 毎回水曜日)	働く婦人の家 2階 軽運動室	湯本 軍一 先生	<定員>70名程度 <受講料>無料 <申込み>9月14日(月)から
公民館ギャラリー		陶友会の陶芸展			
北部公民館	絵手紙教室	・9/17・24・10/1・8 19:00～21:00 (全4回 毎回木曜日)	北部公民館 会議室	市川 典子 先生	<定員>15名<受講料>はかき代1回100円程度 <持ち物>水彩絵の具用具一式 ※ない方は初回はお貸しします 自分の書いてみたい素材
西部公民館	初秋の薬草観察講座 <対象>市内在住、在勤の方。 ※小学3年生以下は保護者同伴	9/12(土) 9:30～12:00 ※雨天実施	浜津ヶ池ボートハウス 東側駐車場に集合	長野県薬草 指導員 須山 正男 先生	<定員>30名<受講料>保険料として100円<持ち物>山歩きのできる服装、雨具、図鑑、採集容器、筆記用具など
	チャレンジ・ザ・ゲームに挑戦しよう! <対象>小中学生、親子他 市内在住、在勤の方	10/3(土) 13:00～16:00	西部公民館	レクレーション・コーディネーター 春原 輝明 先生	<定員>30組<受講料>保険料として100円<持ち物>運動のできる服装、タオル、シューズ、水分
	ふるさとときのご講座 <対象>市内在住、在勤の方。 ※小学3年生以下は保護者同伴	10/10(土) 9:30～12:00 ※雨天実施	道の駅 ふるさと豊田 集合	水野 優 先生 畔上 照雄 先生	<定員>30名<受講料>保険料として100円<持ち物>山歩きのできる服装、雨具、図鑑、採集容器、筆記用具など
豊田公民館	折り紙教室	・10/6・11/2・12/1 ・1/5・2/2 13:30～15:30 (全5回 毎回火曜日) 11/2のみ月曜日	豊田公民館	町田 たつ江 先生	<定員>20名<受講料>無料 <持ち物>折り紙、はさみ、定規、カッター、スティックのり
	初級英会話教室	10月6日から3月まで 毎週火曜日 19:00～21:00	豊田公民館	レイニング・デビット・マーティン 先生	<受講料>無料



2009年 国際交流の集い

外国出身の方々と日本人の国際交流パーティーを開催します。それぞれの国の文化を紹介したり、歌や踊り、料理を楽しみながら、楽しいひと時を過ごしましょう。ご友人、ご家族などみなさんでお誘いあわせて、ぜひご参加ください。子どもたちもぜひ来てください。

平成21年 **10月4日(日)**
午後2時～4時30分
中央公民館 3階講堂

もちもの

自分用のお皿・おわん・スプーン、箸
ゴミ持ち帰り用の袋
エコにご協力ください。

料理の持寄り
大歓迎です

参加費・申込み不要

お問合せ：中野市中央公民館 電話 0269-22-2691 FAX 0269-26-2342
運営協力：中央公民館日本語教室、中野日中友好協会



夕顔／自宅(花だいすき)



カンナの花／桜沢(和田) ※H20撮影

花郷

はなさと
Flower Home



ホップ／一本木(月岡尚雄)



灯籠流し／小沼(るびあす)

花と季節の写真募集

宛先

☎3833-0025
中野市三好町一丁目4番27号
中央公民館
☎222・2691
Eメール c-koninkan@city.nakano.nagano.jp

文化なかの編集委員会では、中野市内の花や季節の写真を募集します。未発表写真に限ります・四ツ切りまで(ワイドサイズも可)のプリント、デジタルデータ(未加工のもの)。
氏名、住所、連絡先、作品名、撮影場所、花の名前等を書き送って下さい。匿名希望やペンネーム掲載はその旨をお伝え下さい。随時募集します。

季節のコラム

千曲川で初めて子どもたちとラフティングを楽しんだ。

千曲川といえば、リンゴの収穫間際、いく度も洪水でつらい思いをしてきた。

ボートは、連日の雨で茶色く水かさが増し、水面が渦巻く千曲川に滑り出した。ガイドの確かな指示とオールさばきで不安が消し飛んだ。

ボートから見える風景は、どこか別の世界だ。

薄っすらともやが漂う川面には、サギや鶴、鴨、トンビが魚を狙って飛び回り、幻想的な世界があった。

大河千曲川が流れるふるさと中野市。これからはもっと身近なふるさとの川に親しんでいきたいものだ。